

芳賀の史跡めぐり

-13-

秋葉山大権現

勝沢町の東部向田（地名）に秋葉山大権現さまが祀られています。この神さまは、火災鎮護の神さまで、境内は約100㎡で西寄りに約10㎡のお堂があります。北側東寄りに秋葉山大権現の立派な石碑があり、その銘には嘉永三年（一八五〇）に建立されたと刻まれています。

この秋葉さまは、元は明和幼稚園の北側の若宮というところに祀られていた若宮八幡宮の境内に安置されていたのを、明治四十五年、現在の勝城神社に合祀される際に、元々この神社が鈴木家の氏神さまであったことと、当時、勝沢町には大火が続出したことから、火伏



勝沢町の秋葉山大権現碑

の神さまである秋葉さまを東部の皆さん総意で現在の所に移転安置したようです。

この神さまのお祭りは、春と秋の年2回行われ、かつては東部の子どもたちが自発的に伝統を守り受け継いできました。子どもたちは、前日、境内やお堂などを清掃し、灯籠に灯を入れ、菓子などを供え、東部地区の安泰と繁栄を祈願しました。その日は、お堂にオコモリ（泊り込む）をし、翌日、各戸からお供えに持ってきた赤飯をいただいてお祭りは終わります。ここ数年は、東昭会（東部青年グループ）が受け継ぎ、盛大に行われています。秋葉講の由来は、はつきりしません。江戸末期の頃、番城（当時の勝沢東部）で火事が度々おこったことによるものとされています。



令和元年10月20日撮影

現在では、静岡県周智郡春野町（現浜松市）天竜川の東方、赤石山頂近くにある秋葉神社へ三年に一度参詣し、秋葉山大権

現のお札を預かってきて、秋葉さまのお祭りには参詣者に領布したり、赤飯やケンチン汁をご馳走し、一緒にお祭りを盛り上げています。

秋葉さまは、秋葉寺内に祀られている三尺坊威徳

生涯学習奨励員

中山 洋子

大権現という祭神で、火防鎮護の神として知られ、一般には秋葉山あるいは秋葉山大権現と呼んでおり、各地の庶民に厚い信仰を受けています。この信仰は、室町時代（一三九二〜一四五二）頃から祀られています。明治維新の際には、神仏分離令によって秋葉寺は秋葉神社となりました。



12月の主な行事予定

12月27日（金）芳賀公民館仕事納め

